

ペレットストーブ

取扱説明書

PS-1301J

お客様へ

- この取扱説明書と保証書をよくお読みの上、正しくお使いください。使用後は大切に保管し、必要なときお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。
- この製品の取り付けには専門的な知識が必要です。据付けや取り替えの際は買い求めの販売店にご依頼ください。

据付けをされる方へ

- この取扱説明書をよく読み、充分理解した上で作業してください。
- 据付け終了後、この取扱説明書をお客様にお渡しください。

株式会社 山本製作所

目次

重要なお知らせ..... 1

1 安全上のご注意..... 2

- 1.1 警告表示について..... 2
- 1.2 使用上のご注意..... 3
- 1.3 警告ラベルについて..... 8
- 1.4 安全装置について..... 10

2 各部の名称とはたらき.... 11

- 2.1 外観図..... 11
- 2.2 構造図..... 12
- 2.3 操作パネル..... 13

3 使用前の準備と確認..... 14

- 3.1 燃料の準備..... 14
- 3.2 燃料の補給..... 15
- 3.3 燃焼室の掃除..... 16
- 3.4 周囲の確認..... 17

4 使いかた..... 19

- 4.1 点火のしかた..... 20
- 4.2 消火のしかた..... 21
- 4.3 火力の変更のしかた..... 22
- 4.4 時刻合わせのしかた..... 23
- 4.5 タイマー運転のしかた..... 24
- 4.6 クリーニングのしかた..... 26

5 日常の点検・手入れ..... 27

- 5.1 定期点検表..... 27
- 5.2 灰受の掃除..... 28
- 5.3 のぞき窓の手入れ..... 30
- 5.4 クリンカの掃除..... 31
- 5.5 本体の掃除..... 33
- 5.6 煙突の点検..... 34
- 5.7 販売店による定期点検..... 34

6 部品交換のしかた..... 35

- 6.1 パッキンの交換..... 35

7 故障・異常時の対応..... 37

- 7.1 こんな症状が出たら..... 37
- 7.2 こんな表示が出たら..... 39

8 地震などの災害が発生したら..... 42

9 保管（長期間使用しない場合）..... 43

10 仕様..... 45

11 保証とアフターサービス..... 46

12 据付け..... 47

- 12.1 据付けに関する注意事項..... 47
- 12.2 開梱する..... 47
- 12.3 設置場所を選ぶ..... 48
- 12.4 煙突を取り付ける..... 49
- 12.5 据付け後の確認..... 53
- 12.6 試運転..... 53

お客さま相談窓口..... 裏表紙

重要なお知らせ

■使用目的・用途について

- この商品は、木質系バイオマスペレット（以降木質ペレットと記す）を燃料とするストーブで、室内の暖房を行うためのものです。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のペレットストーブの使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

■取扱上の注意

- 据付けについては、消防関係法令（消防法、消防法施工令、火災予防条例）などの基準があります。設置工事については、お買い求めの販売店または据付業者に依頼してください。
- この「取扱説明書」は、ペレットストーブ PS-1301 J型（以降ストーブと記す）の安全に関する事項、操作手順および点検整備の手順を説明しています。
株式会社山本製作所（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、ストーブを改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- ストーブの操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載およびストーブ本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成しています。日本語を母国語としない人がこのストーブを取り扱う場合は、取扱者に対して安全指導を徹底してください。

■譲渡について

- このストーブは、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格などの適用・認定などは実施していません。このストーブを国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故などによる補償などの問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- このストーブを譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書をストーブに添付してお渡してください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。

■その他の注意





- この取扱説明書の内容はストーブの改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- このストーブとこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、ストーブ内部の説明を容易にするために省略していることがあります。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い求めの販売店」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い求めの販売店」へお問い合わせください。

1 安全上のご注意

1.1 警告表示について





お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



 危険	この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示の欄は、「人が死亡または重傷などを負う可能性、または火災の可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される」内容です。
！ お願い	この表示の欄は、「製品のために守っていただきたいこと」の内容です。 (故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと)
 お知らせ	この表示の欄は、「知っておいていただきたいことや知っているとう便利なこと」の内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。



注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	高温による傷害を負うおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		接触禁止
	この装置を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。		ガソリン禁止

行為の強制

	この装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
---	---	---	--

1.2 使用上のご注意

■使用にあたって



危険



点火などの目的でガソリンなど揮発性の高い油を絶対に使用しない。

※ 火災の原因になります。



警告



スプレー缶をストーブ周囲に放置しない。

※ 熱でスプレー缶の圧力が上がり爆発するおそれがあります。



ライター・マッチなどで点火しない。

※ やけどの原因になります。



灰受には紙・布などは入れない。

※ 使用前に必ず点検してください。発熱、発火の原因になります。



分解修理・改造の禁止。

※ 故障、破損したら、使用しないでください。
異常燃焼や火災の原因になることがあります。



電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用やタコ足配線をしてしない。

※ 発熱、発火の原因になります。



電源コードを傷めない。

※ 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。守らないと、火災や感電の原因になります。



電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む。

※ 守らないと、火災の原因になります。











電源は交流100Vのコンセントで使用する。

※ 守らないと、発熱、発火の原因になります。








燃料（木質ペレット）の取扱注意。

※ 特に乳幼児が誤って口に入れないように注意してください。









 注意	
 ストーブの上に花びんなどの水のごぼれやすい物を置かない。 ※ 水の入った容器や物を上にのせないでください。 水が内部に入ると感電や故障の原因になることがあります。	 ストーブの上にのったり、物を置かない。 ※ 本体の上にのらないでください。 天板がへこんだり、やけどのおそれがあります。
 木質ペレット燃料以外の物をホッパに投入しない。 ※ 故障の原因になります。	 変質した燃料を使用しない。 ※ 異常燃焼や故障の原因になることがあります。
 ストーブを使用している同室内で換気扇を使用しない。 ※ 立消えして爆発燃焼するおそれがあります。	 指定の木質ペレット燃料以外は使用しない。 ※ 燃焼不良の原因となり、支障をきたすおそれがあります。
 初めて使用するとき注意する。 ※ ご購入後初めて使用されるときは、防錆油や塗装が焼けるため、煙やにおいが出ることがあります。窓をあけて部屋の換気をしてください。	





■使用する場所

 警告	
 カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しない。 ※ 火災が発生するおそれがあります。	

















 注意	
 スプレーや化学薬品を使用する場所で使わない。 ※ 健康を害したり、故障の原因になることがあります。	 マンツルピースなどストーブが囲われる場所には据付けない。 ※ 不完全燃焼の原因になることがあります。

■使用中




 警告	
 <p>燃焼中や消火直後は、高温部、煙突に手などふれない。</p> <p>※ やけどをするおそれがあります。小さいお子様のいるご家庭では市販のガードを設置してください。</p>	 <p>可燃性ガスを発生するもの（ベンジン、シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しない。</p> <p>※ 火災や故障の原因になります。</p>
 <p>運転中は天板蓋および灰受扉を開けない。</p> <p>※ やけど・けがのおそれがあります。</p>	 <p>異常時使用しない。</p> <p>※ におい、すす、煙発生など、異常を感じたときは、使用しないでください。火災や異常燃焼のおそれがあります。</p>
 <p>運転中は天板ガードを取り外さない。</p> <p>※ 落下可燃物により、火災の原因になります。</p>	 <p>寝るときや外出するときは、運転を停止（消火）する。</p> <p>※ 守らないと、事故が発生するおそれがあります。</p>
 <p>1時間に1～2回（1回あたり1～2分）、換気をする。</p> <p>※ 酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。</p>	






 注意	
 <p>電源プラグを抜いて消火しない。</p> <p>※ 消火後、送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。天板が高温になり、やけどや故障の原因となります。</p>	 <p>ぬれた手で電源プラグを差したり、抜いたりしない。</p> <p>※ 感電の原因となります。</p>
 <p>ストーブの上にやかんなどをのせない。</p> <p>※ 振動や接触によってやかんの熱湯がこぼれ、やけどや感電、故障の原因になります。</p>	

■点検・手入れ・保管

 警告	
 <p>煙突が正しく接続されているか点検する。</p> <p>※ 外れていると運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。</p>	 <p>積雪の多いときには、煙突トップの周りが雪でふさがれていないことを確認する。ふさがれているときは除雪する。</p> <p>※ 運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。</p>
 <p>保管するときや長時間使用しないときは、必ず燃料（木質ペレット）を抜く。</p> <p>※ 火災のおそれがあります。</p>	 <p>長期間使用しないときは電源プラグを抜く。</p> <p>※ 守らないと、火災や事故の原因になります。</p>
 <p>電源プラグを抜き、ほこりを除去する。</p> <p>※ ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。</p>	 <p>灰受の灰を定期的に捨てる。</p> <p>※ 灰受がいっぱいになった後も使用を続けると、火災や事故の原因になります。</p>
 <p>ストーブの周囲は常に整理・整頓し、ほこりなどがたまらないように掃除する。</p> <p>※ 守らないと、火災の原因になります。</p>	 <p>灰を取り出すときおよび灰を捨てるときは熱い燃えカス、火気に注意。</p> <p>※ やけど・けがや火災のおそれがあります。</p>
 注意	
 <p>傾けたり、横倒した状態では保管しない。</p> <p>※ 故障の原因となります。</p>	 <p>本体を廃棄処分するときは、必ず燃料タンク内の燃料（木質ペレット）を抜く。</p> <p>※ 燃料（木質ペレット）が入ったまま廃棄すると事故になるおそれがあります。</p>
 <p>点検・手入れは、消火後ストーブが充分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行う。</p> <p>※ やけど・けがの原因になります。</p>	 <p>正常な機能を維持するために定期点検を行う。</p> <p>※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。</p>
 <p>交換部品は、純正部品を使う。</p> <p>※ 他の部品を使用するとけがや事故の原因となります。</p>	 <p>ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去する。</p> <p>※ 湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。</p>

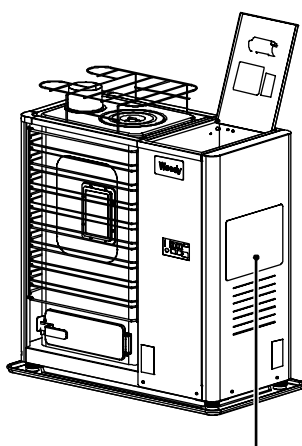
■据付け

 警告	
 <p>窓の凍結や地下室など換気が充分に行えない場所では使用しない。</p> <p>※ 酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。</p>	 <p>次の場所では据付け、使用しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水平でない場所、不安定な場所 ・ 不安定な物をのせた棚などの下 ・ 風のあたる場所や部屋の出入口、屋外 ・ 可燃性ガスの発生する場所や、たまる場所 ・ ほこり、湿気、金属粉の多い場所 ・ 温室、飼育室など人のいない場所 ・ 標高が1000m以上の高地 ・ 気密の高い部屋 <p>※ 火災、不完全燃焼、有毒なガス発生の原因になることがあります。</p>

 注意	
 <p>引っ越しなどの持ち運びするときは必ず燃料（木質ペレット）を抜き、傾けたり、横倒ししない。</p> <p>※ 火災や予想しない事故の原因になることがあります。</p>	 <p>熱に弱い床面にはマットなどを敷く。</p> <p>※ 変色、ヒビ割れ、そり返りなどが発生することがあります。熱に強いマットなどを敷いてください。</p>
 <p>据付工事や移設工事は、必ずお買い求めの販売店に依頼する。</p> <p>※ ストーブおよび煙突の据付けについては、各地の火災予防条例の設置基準による規制があります。お客様ご自身による工事は予想しない事故の原因になることがあります。</p>	 <p>本体が入っていた袋は、子どもがかぶって遊ばないように注意する。</p> <p>※ かぶって遊ぶと窒息するおそれがあります。</p>

1.3 警告ラベルについて

- このストーブには、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買い求めの販売店へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買い求めの販売店へご注文ください。



— ご使用になる前に取扱説明書を必ずお読みいただき安全に正しくお使いください。 —

燃 料

- 指定の木質ペレット燃料をご使用ください。

△ 注意 指定の木質ペレット燃料以外は使用しない。（燃焼不良の原因となり、支障をきたすおそれがあります。）

燃料補給

- 補給する量はホッパフタが完全に閉まる程度にしてください。
- 燃料補給が終わったら、必ずホッパフタをしめてください。
- こぼれた木質ペレット燃料はきれいに取り除いてください。

△ 注意 木質ペレット燃料以外の物をホッパに投入しない。（故障の原因になります。）

点 火

- 運転ボタンを押してください。（運転ランプが点灯し、自動点火します。）

火力調節

- 表示切替ボタンを押して火力表示に切り替え、火力調節ボタンを押して希望の火力に合わせてください。

消 火

- 再度、運転ボタンを押してください。（運転ランプが点滅し、消火検知後自動停止します。）

時刻設定

- 表示切替ボタンを押して時計表示に切り替え、時計設定ボタンを押して時刻を合わせてください。

タイマー運転

- おはようタイマー運転ボタンを押してください。（おはようタイマー運転ランプが点滅します。）
- 時刻設定ボタンを押して希望の時間に設定してください。（10秒間操作がない場合、または表示切替ボタンを押すとタイマー運転を停止します。）
- 再度、おはようタイマー運転ボタンを押してください。（おはようタイマー運転ランプが点灯し、設定時刻に自動点火します。）

清掃と点検

- 灰受の掃除は強燃焼（P4）で3日間、弱燃焼（P1）で10日間を目安に行ってください。
- 運転中にクリンカ（灰が溶けて固まったもの）ができていた場合は掃除を行ってください。（燃焼量によっても異なりますが約3～5時間位でクリンカができます。）
- 2シーズンに1回はお買い上げの販売店に点検を依頼してください。

△ 警告 煙突が正しく接続されているか点検してください。（外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、事故の原因になります。）

△ 警告 積雪が多いときには、煙突トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。ふさがれているときは除雪してください。（運転中に排ガスが室内にもれて、事故の原因になります。）

△ 注意 灰受の掃除は、運転を停止してから行ってください。（やけど・けがの原因になります。）

190882-910200

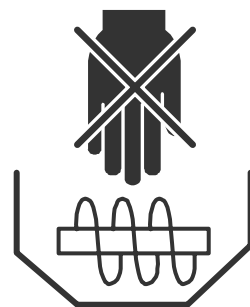
使用燃料

- 指定の木質ペレット燃料をご使用してください。（銘板に記載）

注 意

- 指定の木質ペレット燃料以外は使用しないでください。燃烧不良の原因となり、支障をきたすおそれがあります。

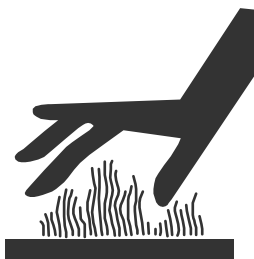
! 注 意



運転中に楯内に手を入れると、回転物に接触し、ケガをすることがあります。楯内に手を入れないでください。

297117-0400

! 警 告



㊟

運転中は機械が熱くなります。接触すると、火傷や思わぬ事故につながる可能性があります。さわるときは、手袋を使用してください。

297504-0500

! 警 告



㊟

感電することがあります。フタを開けるときは、電源を切ってください。

297503-0500

注 意

この上には重量物や、熱いやかん等をのせないでください。

1.4 安全装置について

このストーブには次の安全装置がついています。すべての安全装置は異常が取り除かれても、再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

■対震自動消火装置（感震器）

原 因	処置方法
地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、自動的に消火します。	👉 39ページ

■過熱防止装置

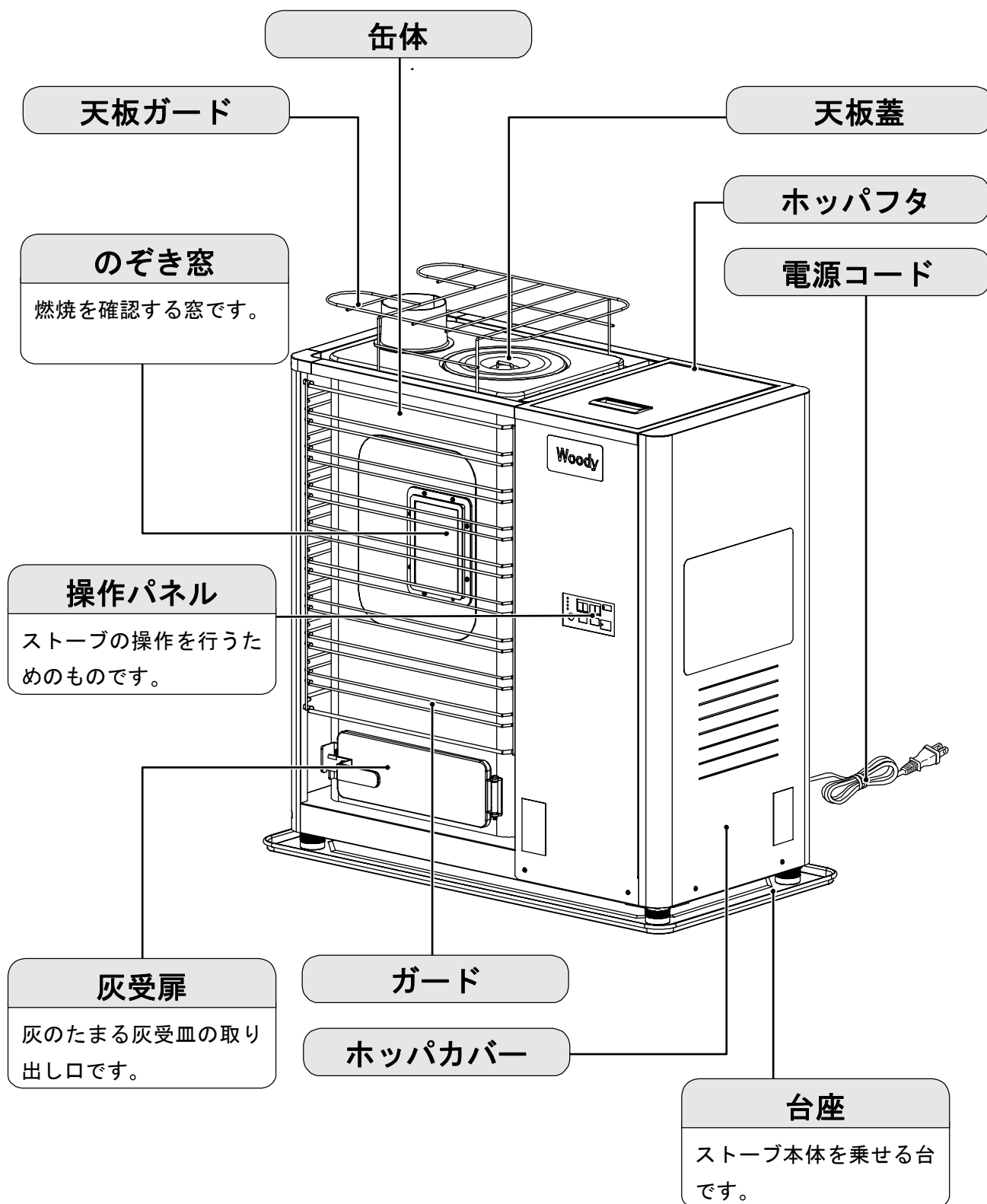
原 因	処置方法
異常過熱を検出した場合は、強制的に即消火動作に入ります。	👉 39ページ

■点火安全装置／燃焼制御装置

原 因	処置方法
点火失敗、途中消火・燃料切れしたときに自動的に消火します。	👉 39～41ページ

2 各部の名称とはたらき

2.1 外観図



2.2 構造図

スクリーア

ホッパ内の燃料（木質ペレット）を送り出すためのものです。

バッフルプレート

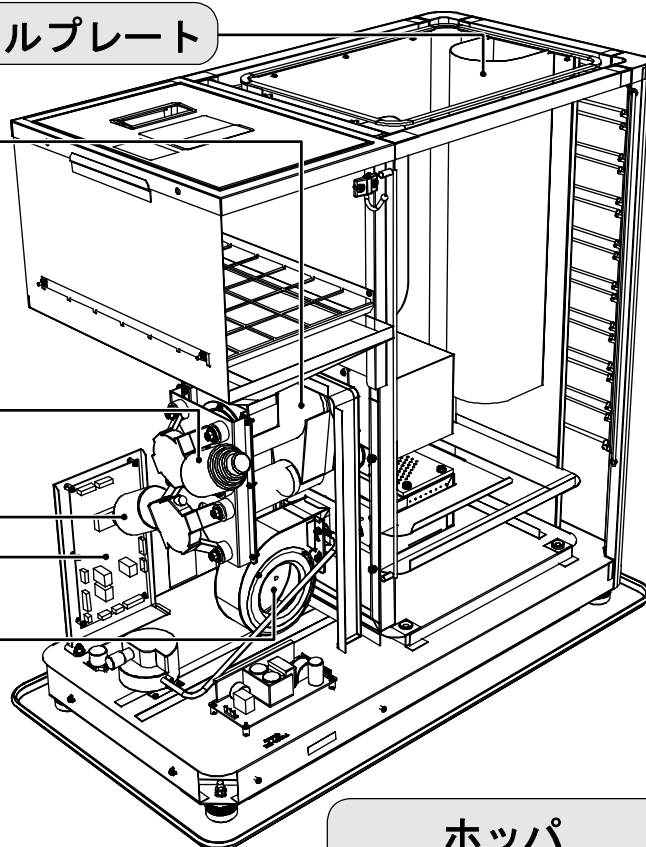
燃料送りモータ

スクリーアとBを動かすためのモータです。

制御基板

送風ファン

燃焼に必要な空気を送り出すためのファンです。



ホッパ

燃料（木質ペレット）をためておくところです。

スクリーアB

燃料（木質ペレット）を燃焼室に送り出すためのものです。

ロストル

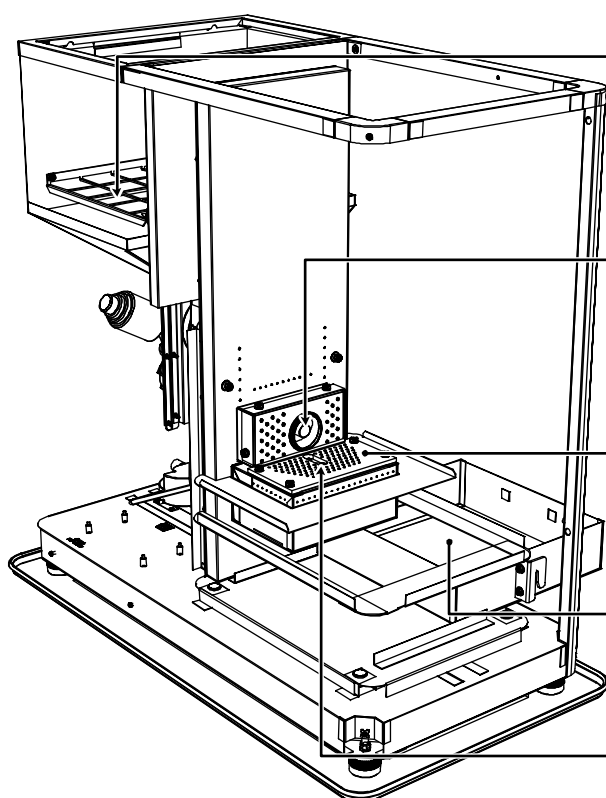
燃料（木質ペレット）を燃焼させるところです。

灰受皿

灰がたまるところです。

点火ヒータ

燃料（木質ペレット）を点火させるためのものです。



2.3 操作パネル

タンク空ランプ

ホッパ内に燃料（木質ペレット）がなくなったとき、このランプが点滅します。(➡ 41ページ)

表示ランプ

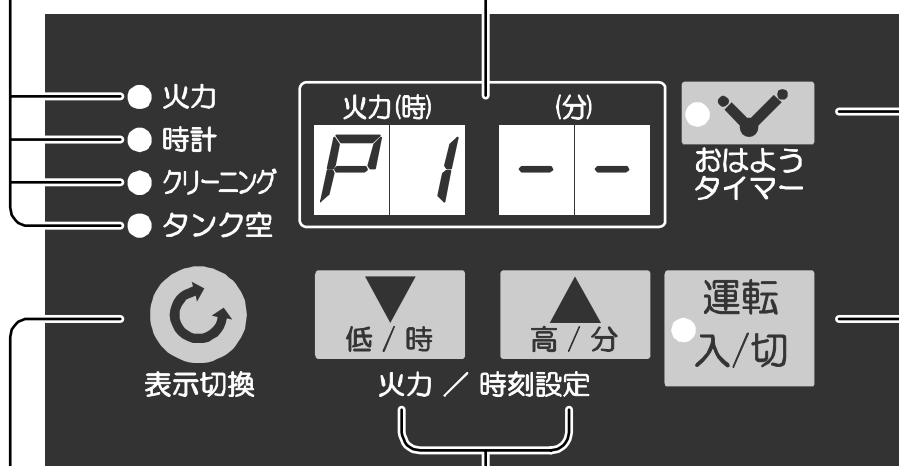
表示部の表示内容に応じて、このランプが点灯します。

表示部

火力、時刻、タイマー設定時刻、エラーコードを表示します。

おはようタイマーボタン (おはようタイマーランプ付き)

タイマー運転を行うときに押します。
(このランプが点灯します。)(➡ 24、25ページ)





表示切換ボタン



表示を切り換えるときに押します。
ボタンを押すたびに、「火力」、「時計」、「クリーニング」の順で表示が切り換ります。

火力調整、時刻設定ボタン

表示が「火力」のときに、火力を調整する場合に押します。

	火力を上げる
	火力を下げる

表示が「時計」のときに、時計を設定する場合に押します。

	分を設定する
	時を設定する

(➡ 22、23ページ)

運転ボタン (運転ランプ付き)


運転（入）および停止（切）するときに押します。
(このランプは、運転時に点灯します。)(➡ 20、21ページ)

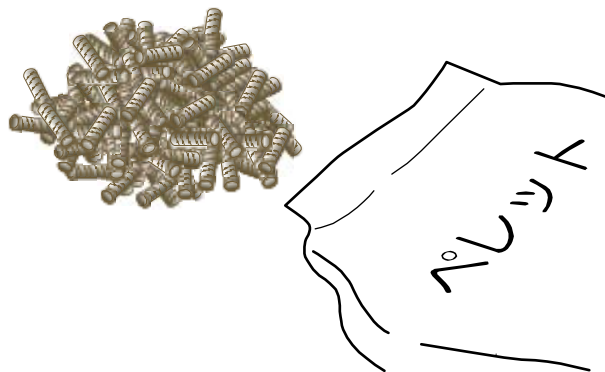
3 使用前の準備と確認

3.1 燃料の準備

■使用できるペレット

- 燃料は指定の木質ペレット燃料を使用してください。（機体銘板に記載）

⚠ 注意	
	<p>指定の木質ペレット燃料 以外は使用しない。</p> <p>※ 燃焼不良の原因となり、 支障をきたすおそれがあり ます。</p>



■使用できるが注意が必要なペレット

- 保管している木質ペレット燃料が湿気を持つことがあります。湿気を持った木質ペレット燃料を使用すると、点火しにくくなったり、のぞき窓（耐熱ガラス）内面がくもりやすくなります。

3.2 燃料の補給

⚠ 注意



木質ペレット燃料以外の物をホッパに投入しない。

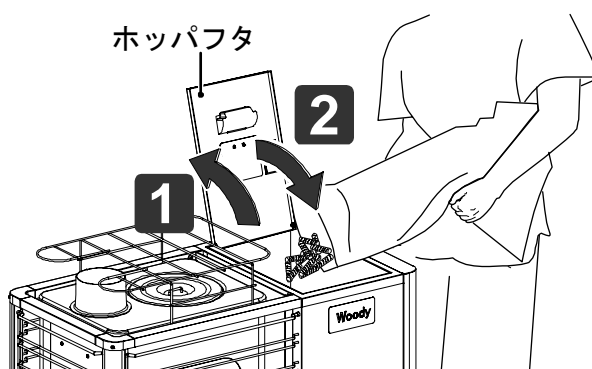
※ 故障の原因になります。

1 ホッパフタを開けて木質ペレット燃料を補給します。

- 補給する量は、ホッパフタが完全に閉まる程度にしてください。

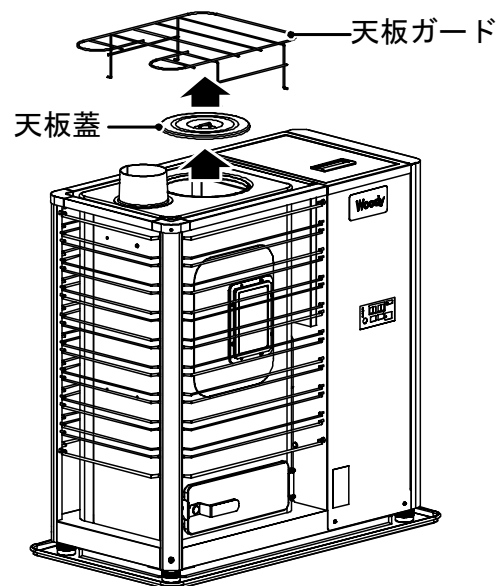
2 燃料補給が終わったら、必ずホッパフタを閉めます。

- こぼれた木質ペレット燃料はきれいに取り除いてください。





3.3 燃焼室の掃除

- 1** 本体内部が常温になってから、天板ガードを取り外し、天板蓋を開けます。



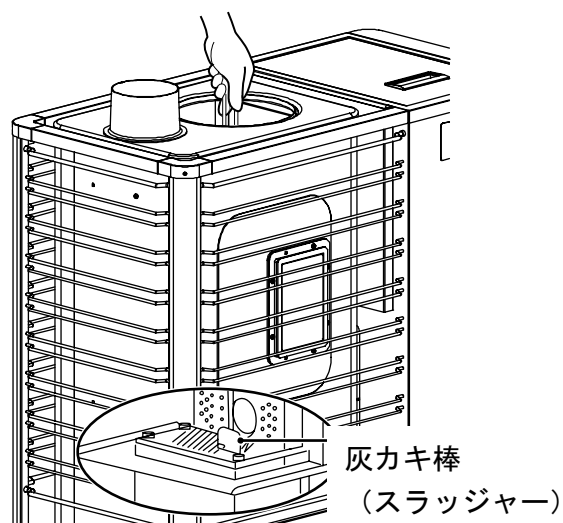
- 2** 付属品の灰力キ棒(スラッジャー)でロストル上およびロストル周りの灰を灰受へ落とします。

**注意**

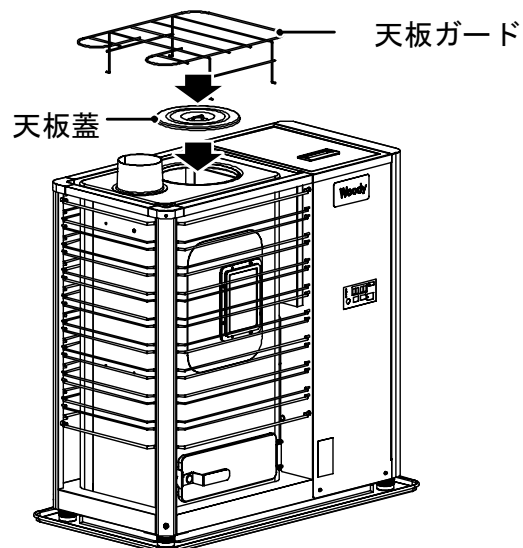


付属品の灰力キ棒(スラッジャー)で点火ヒータを破損しないよう注意する。

※ 衝撃などを与えると点火ヒータを損傷する原因になります。



- 3** 灰を落とし終わったら、天板蓋を閉じ、天板ガードを取り付けます。



3.4 周囲の確認



警告



灰受には紙・布などは入れない。

※ 使用前に必ず点検してください。
発熱、発火の原因になります。



ストーブの周囲は常に整理・整頓し、ほこりなどがたまらないように清掃する。

※ 守らないと、火災の原因になります。

煙突が正しく接続されているか点検する。

※ 外れていると運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。

積雪の多いときには、煙突トップの周りが雪でふさがれていないことを確認する。ふさがれているときは除雪する。

※ 運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。



注意



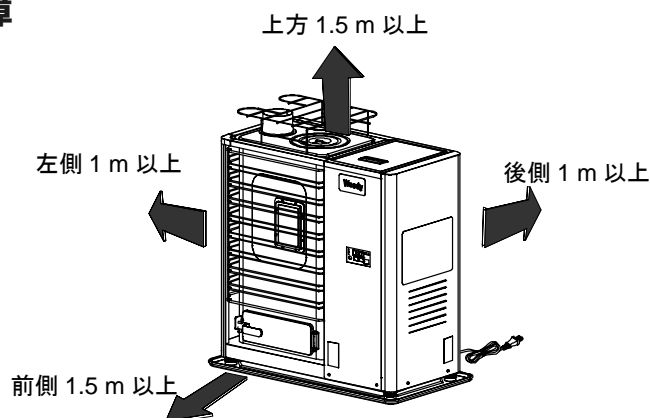
ストーブの上に花瓶などの水のこぼれやすい物を置かない。

※ 水の入った容器や物を上にのせないでください。
水が内部に入ると感電や故障の原因になることがあります。

ストーブの上にのったり、物を置かない。

※ 本体の上にのらないでください。
天板がへこんだり、やけどのおそれがあります。

1 ストーブおよびストーブ周囲（右図に示す寸法以内）に可燃物や障害物がないことを確認します。



2

煙突の接続部を確認します。

(☞「12.4 煙突を取り付ける」)

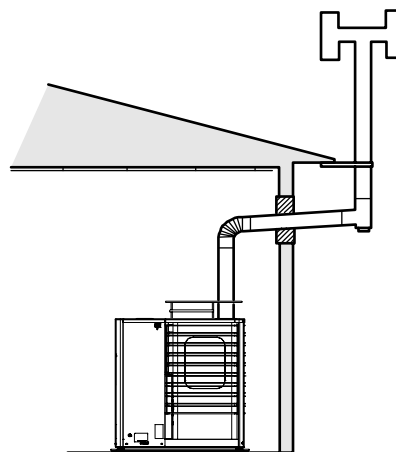


警告



煙突が正しく接続されているか点検する。

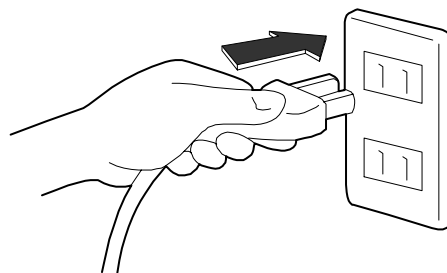
※ 外れていると運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。



3

電源プラグをコンセントに差し込みます。

- ➡ 表示が「P1 --」になります。
- 電源は家庭用100Vです。
必ず専用コンセントを使用してください。
- 電源コードがストーブの下敷きになったり、煙突など高温部にふれていないか確認してください。



4 使いかた



警告



燃焼中や消火直後は、高温部（のぞき窓、缶体）、煙突に手などふれない。

※ やけどをするおそれがあります。

小さいお子様のいるご家庭では市販のガードを設置してください。



寝るときや外出するときは、運転を停止（消火）する。

※ 守らないと、事故が発生するおそれがあります。

1時間に1～2回（1回あたり1～2分）、換気をする。

※ 酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。



注意



初めて使用するとき注意する。

※ ご購入後初めて使用されるときは、防錆油や塗装が焼けるため、煙やにおいが出ることがあります。窓をあけて部屋の換気をしてください。

4.1 点火のしかた

⚠ 注意



点火動作中に電源プラグを抜かない。

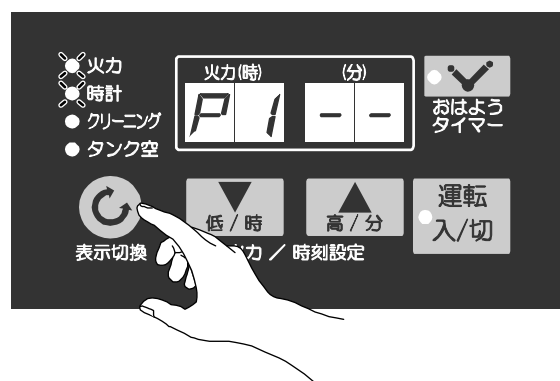
※ 電源プラグを抜く前に(点火用に)送り出された燃料がロストル上に残っているため、正常な点火動作ができず、事故が発生するおそれがあります。

1



を押して、表示を「火力」
または「時計」に切り換えます。

➡ 「火力」ランプ、または「時計」ランプ
が点灯します。



2



を押します。

➡ 「運転」ランプが点灯し、点火動作に
入ります。



お知らせ

- **運転入/切** を押したときに、ブザー音が鳴ります。(各スイッチ操作時にすべてブザー音が鳴ります。)
ただし、缶体の温度が規定値よりも高い状態で **運転入/切** を押した場合は、点火動作は行わず、すぐに燃焼動作になります。

(例： 燃焼動作中に、誤ってコンセントを抜いてしまった場合や、瞬時停電時の再始動など)

➡ 点火ヒータが作動し、4～5分で点火します。



お知らせ

- 点火後、缶体が充分温まってから通常の燃焼動作に移行します。



4.2 消火のしかた

燃焼動作中に、再度「運転」ボタンを押すと消火動作になります。

警告



長期間使用しないときは電源プラグを抜く。

※ 守らないと、火災や事故の原因になります。

注意



電源プラグを抜いて消火しない。

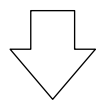
※ 消火後、送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。
天板などが高温になり、やけどや故障の原因となります。

1

運転
入/切

を押します。

- ➡ ブザー音が鳴り、消火動作に入ります。
- ➡ 「運転」ランプが点滅し、「火力」表示の場合は「PL」を表示します。

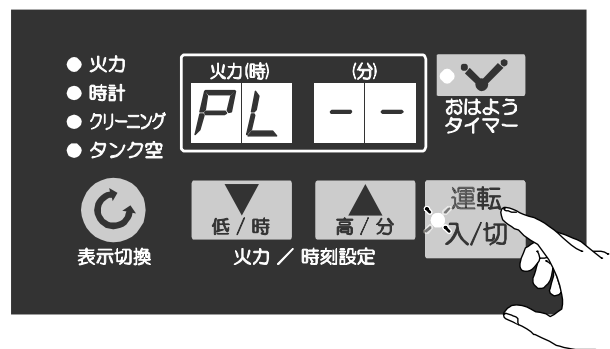


缶体の温度が規定値
以下になると
(約20分後)


- ➡ 送風ファンが停止し、「運転」ランプが消灯します。

お知らせ

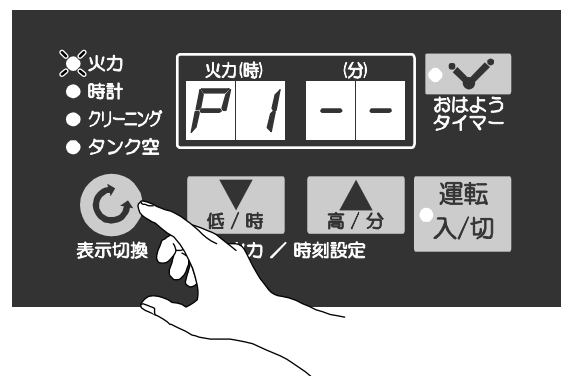
- 点火動作中に、再度「運転」ボタンを押すと、運転開始30秒未満であれば即停止します。30秒以上(点火用の燃料が供給された後)の場合は、点火動作終了後に消火動作に入ります。





4.3 火力の変更のしかた

1  を押して、表示を「火力」に切り換えます。

➡ 「火力」ランプが点灯します。

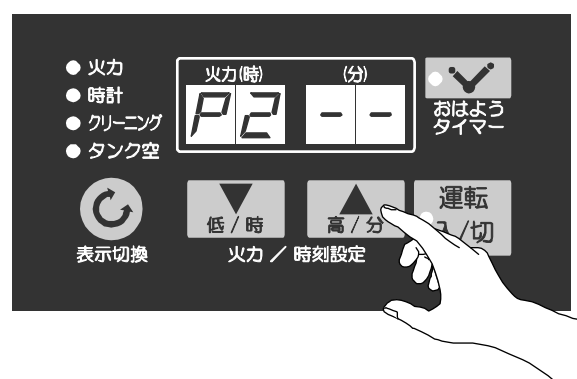


2  高 / 分 または  低 / 時 を押すとパワーレベル（火力）が変更できます。

➡ 変更後のパワーレベルが表示されます。


お知らせ

- 火力調節は「P1」から「P4」の4段階の調節が行えます。
- 停止中、通常運転中にパワーレベルを設定することができます。

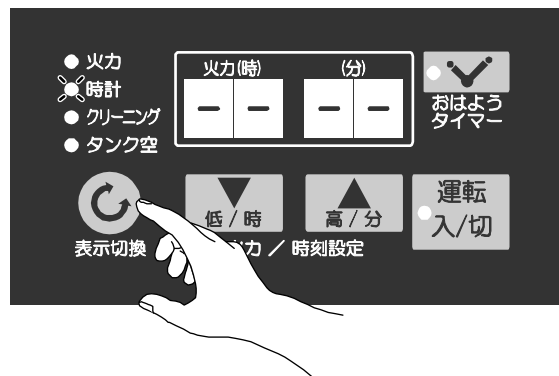


4.4 時刻合わせのしかた


1

 を押して、表示を「時計」に切り換えます。

- ➡ 「時計」ランプが点灯します。
- ➡ 時計が未設定の場合は、「-- --」表示になります。
- 停止中でも運転中でも合わせることができます。



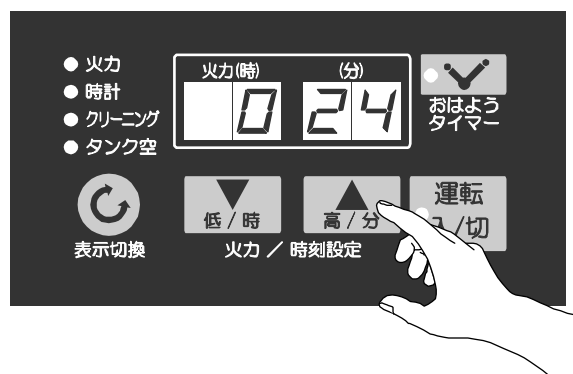
2

 高 / 分 または  低 / 時 を押して時計を合わせます。

- ボタンを押しつづけると早送りになります。

お知らせ

- 時計を合わせていないとタイマー運転が行えません。
- 停電などで電源が落ちた場合は、再度時計合わせが必要になります。



4.5 タイマー運転のしかた

設定時刻になると、自動的にストーブの運転を開始します。

！ お願い

- タイマー運転をするときは、設定前に必ず燃焼室の掃除をしてください。

お知らせ

- 運転を開始後、ボタン操作が2時間以上ないときは自動的に消火動作に入ります。

1



を押します。

- ➡ 「おはようタイマー」ランプが点滅し、タイマー時刻を表示します。


お知らせ

- 各スイッチ操作時にブザー音が鳴ります。

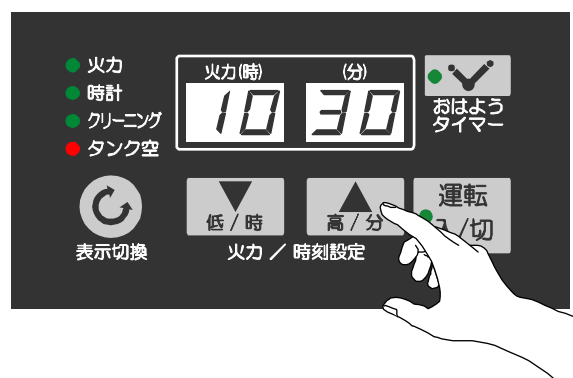


2



または  で希望する設定時刻に変更します。

- ボタンを押しつづけると早送りになります。
- 10秒間操作がない場合、または「表示切換」ボタンを押すと、「おはようタイマー」ランプが消灯し、タイマー運転を停止します。



3



「おはようタイマー」ランプが点滅中に  を再度押します。

- ➡ 「おはようタイマー」ランプが点灯し、タイマー運転を開始します。
- ➡ 設定時刻に達すると運転を開始し、通常運転開始の場合と同じように点火動作に入ります。



■タイマー設定について

お知らせ


- タイマー運転は停止状態のときのみ設定できます。
- 火力は、「火力」表示で設定ができます。
( 「4.3 火力の変更のしかた」)
- 表示切換後、10秒間操作がない場合は、タイマー設定時刻表示に切り換わります。
- タイマー運転中に「運転」ボタンを押すと、タイマー運転を停止し、点火動作に入ります。
- タイマー運転中に再度  を押すと、タイマー運転を停止します。

4.6 クリーニングのしかた

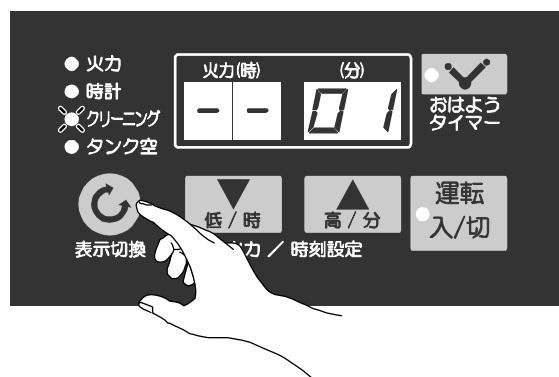
シーズンオフや長期間使用しないとき、ホッパ内のペレットを完全に取り除きます。

！ お願い

- クリーニングは、燃烧室の掃除を行い、灰受皿の燃烧灰を捨ててから行ってください。
- ペレット投入口より、取り除けるペレットは、クリーニング前にできるだけ取り除いてください。

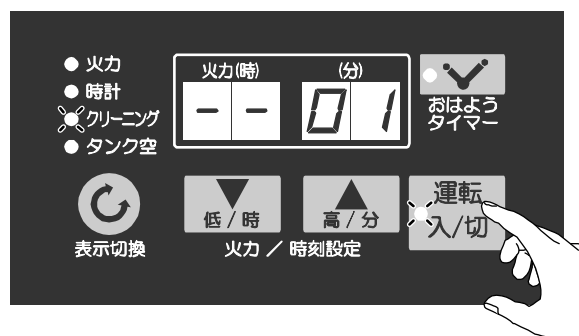
1  を押して、表示を「クリーニング」に切り換えます。


➡ 「クリーニング」ランプが点灯し、「-- 01」を表示します。



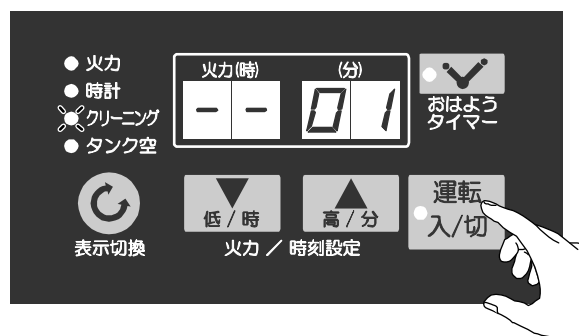
2  を 5 秒間長押しします。

➡ 「運転」ランプが点灯し、ペレットが燃烧室内へ排出されます。



3 ペレットの排出が終了したら、再度  を押します。

➡ 「運転」ランプが消灯し、ペレットの排出を停止します。



お知らせ

- クリーニングは、停止中にしか行えません。運転中は、「クリーニング」表示には切り換わりません。

5 日常の点検・手入れ

5.1 定期点検表

点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない点検内容についてはお買い求めの販売店へ依頼してください。

注意



正常な機能を維持するために定期点検を行う。

※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

点検・手入れは、消火後ストーブが充分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行う。

※ やけど・けがの原因になります。

点 検 内 容	点検時期			備 考	参照 ページ
	点 火 前	1 か 月 毎	必 要 に 応 じ て		
燃焼室の掃除	●				16
周囲の確認	●				17
灰受の掃除			●	強燃焼（P4）の時、3日間 弱燃焼（P1）の時、10日間	28
のぞき窓の手入れ			●	透明度が悪くなったら	30
クリンカの掃除			●	3～5時間	31
本体の掃除		●		1か月に1回以上	33
煙突の点検			●	シーズンの初め	34
販売店による定期点検			●	2シーズンに1回程度	34

5.2 灰受の掃除

3~10日間

掃除

このストーブには灰の掃除が容易にできるよう、灰受があります。

灰受は強燃焼（P4）で3日間、弱燃焼（P1）で10日間をめぐりに必ず灰を捨ててください。次の方法で確認、掃除をしてください。

警告



灰受の灰を定期的に捨てる。

※ 灰受がいっぱいになった後も使用を続けると、火災や事故の原因になります。

注意



灰受の掃除は、運転を停止してから行う。

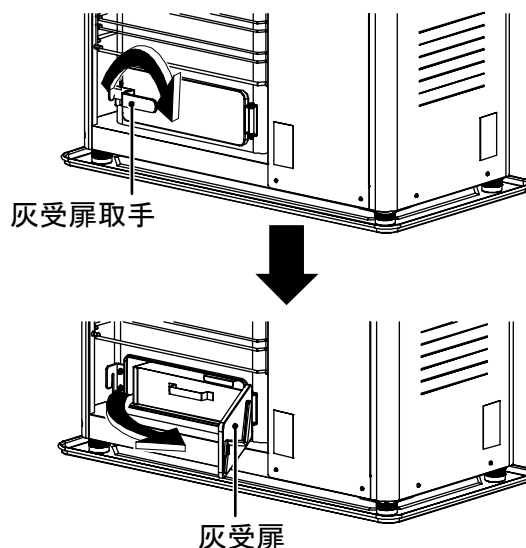
※ やけど・けがの原因になります。

灰受に未燃ペレットがこぼれている場合は、灰受がいっぱいになっていなくても捨てる。

※ 灰受でペレットが燃えると、ストーブの故障、破損の原因になります。

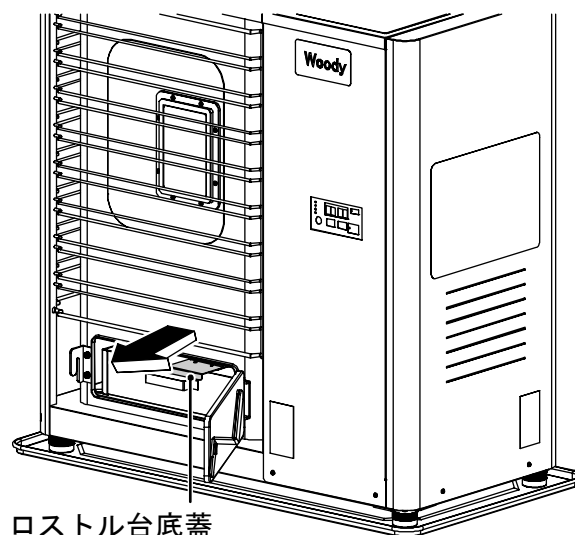
1

扉取手を時計方向に回し、灰受扉を開けます。



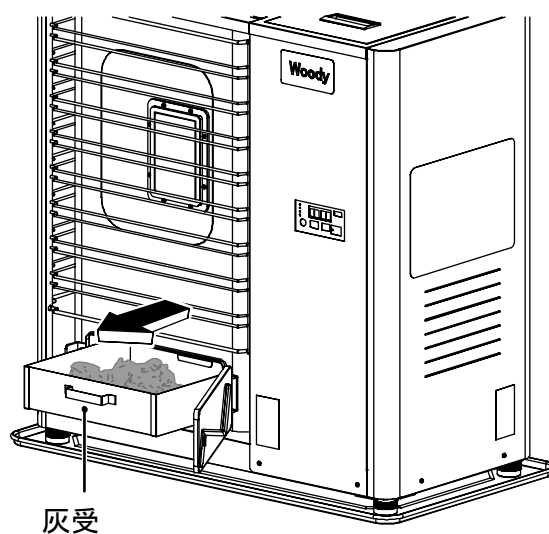
2

ロストル台底蓋を手前に引き出し、ロストル台にたまった灰を落とします。





3

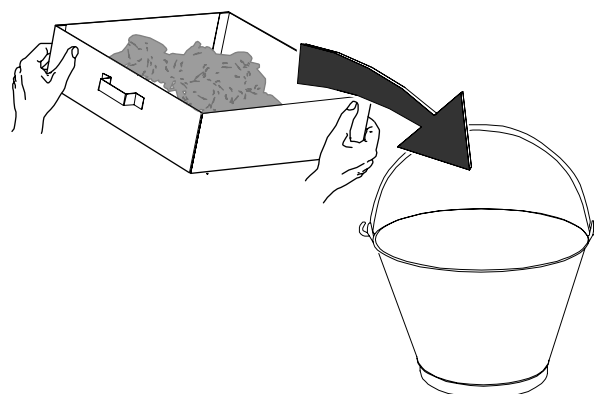
灰受を手前に引き出します。



4

灰受にたまった灰を捨てます。

 警告	
	<p>灰を取り出すときおよび灰を捨てるときは熱い燃えカス、火気に注意。</p> <p>※ やけど・けがや火災のおそれがあります。</p>



お知らせ

- ストープの脇に蓋付金属製バケツを用意して、バケツに灰を捨てると周囲を汚さず掃除ができます。
- 灰が完全に冷えてから掃除機を使用するときれいに掃除ができます。

5

灰受を取り付け、灰受扉を閉めます。

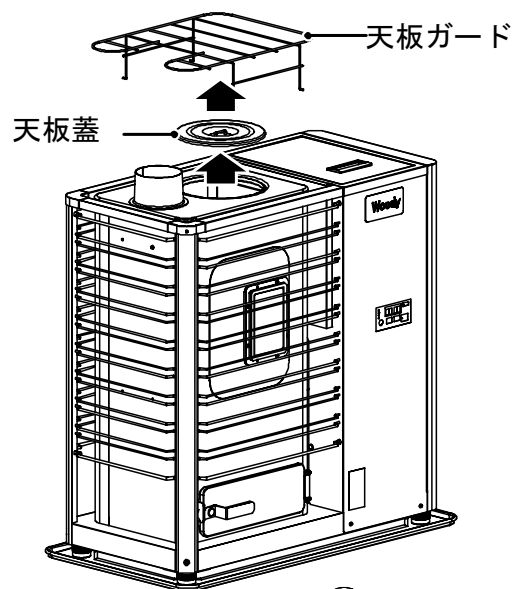
5.3 のぞき窓の手入れ

適宜


手入れ


のぞき窓の透明度が悪くなったときは、以下の手順で手入れを行ってください。

- 1 本体内部が常温になってから、天板ガードを取り外し、天板蓋を開けます。

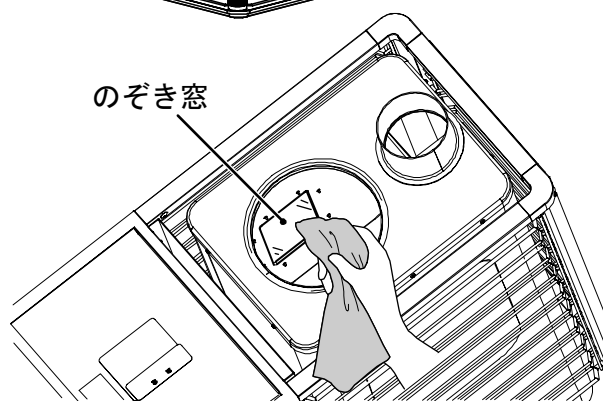


- 2 内側より少し水を含ませた布などで、のぞき窓をふきます。

**注意**

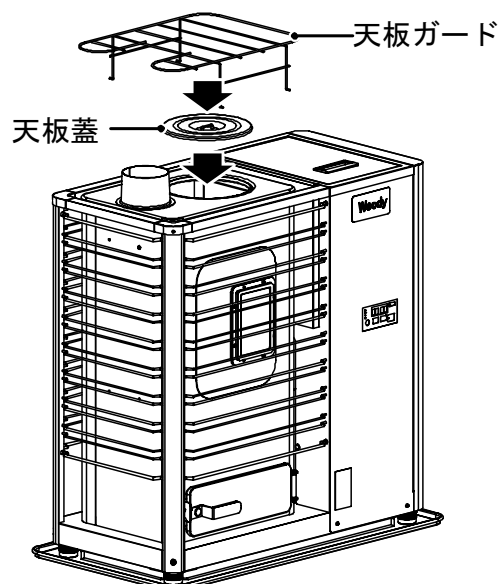


あまり強く押えすぎない。
※ のぞき窓（耐熱ガラス）が
損傷したり、割れた耐熱ガ
ラスでけがをする原因とな
ります。



- のぞき窓に損傷がある場合は、お買い求めの販売店へ交換を依頼してください。

- 3 天板蓋を閉じ、天板ガードを取り付けます。

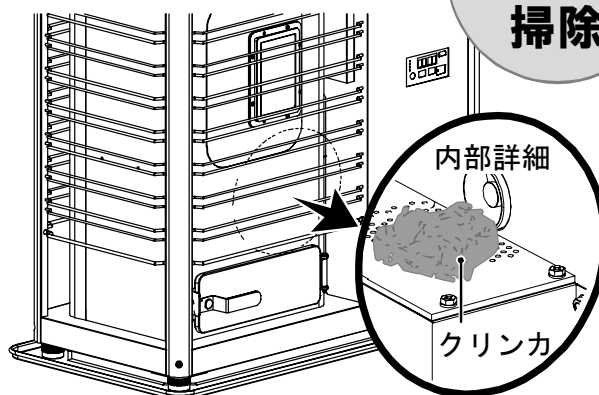


5.4 クリンカの掃除

3～5 時間

掃除

- クリンカ（灰が溶けて固まったもの）ができる場合があります。
ロストル上にクリンカができると、灰が灰受に落ちないため、木質ペレットが出口で盛り上がり、燃烧が妨げられます。
- クリンカのできる時間は、木質ペレットの性質、燃烧量によっても異なりますが約3～5時間位です。火力が大きいほど発生しやすくなります。



■ 掃除手順

⚠ 注意



運転中に確認してクリンカができていた場合は掃除を行う。

※ 運転を続けると完全燃烧しなくなり、ホッパから煙がでたり、装置の故障の原因になります。

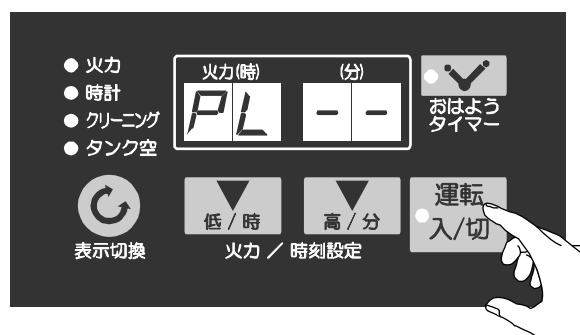
1

運転
入/切

を押します。

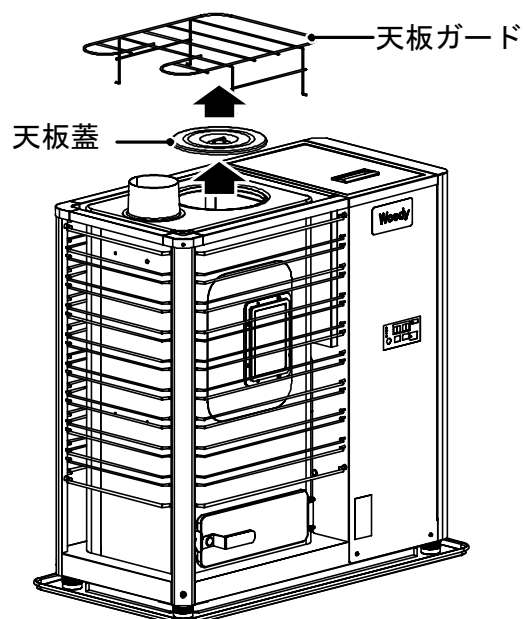
（☞「4.2 消火のしかた」）

➡ 運転が停止します。



2

消火し本体内部が常温になってから、天板ガードを取り外し、天板蓋を開けます。



3

クリンカを付属品の灰力キ棒（スラッジャー）で灰受に落とします。

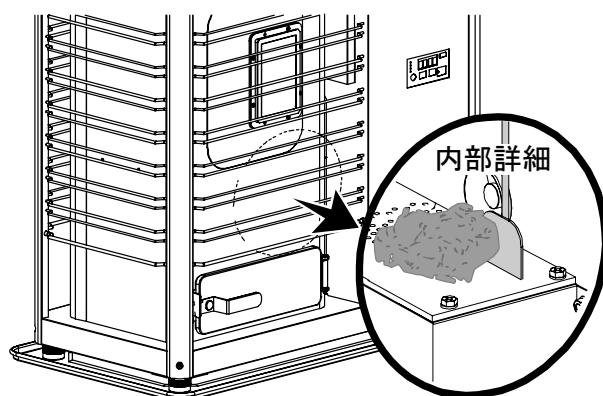


注意



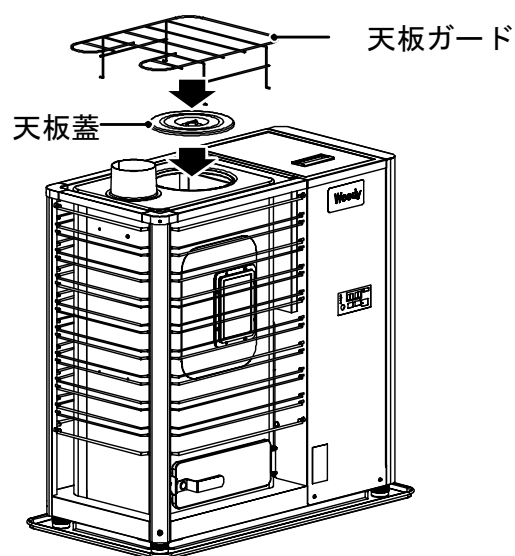
付属品の灰力キ棒（スラッジャー）で点火ヒータを破損しないよう注意する。

※ 衝撃などを与えると点火ヒータを損傷する原因になります。



4

天板蓋を閉じ、天板ガードを取り付けます。



5.5 本体の掃除

1か月に1回

掃除

⚠ 注意



本体をベンジン・シンナーなどでふかない。

※ 塗装の色があせたり、部品が変形する原因になります。



缶体を濡れた布などでふかない。

※ 塗装がはげたり、サビの原因になります。

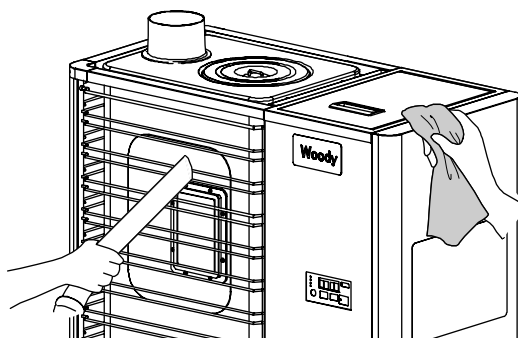


本体の掃除は、運転を停止してから行う。


※ やけど・けがの原因になります。

1 ほこりを掃除機で吸い取ります。

2 汚れは台所洗剤を薄めたものを付けた布でふき、その後、乾いたやわらかい布でふき取ります。缶体は、乾いた軟らかい布で軽くほこりを落とす程度にふき取ります。



！ お願い

- 警告ラベルの汚れはきれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。（ 8～9ページ）

3 電源プラグの先端部分にたまったほこりを掃除します。

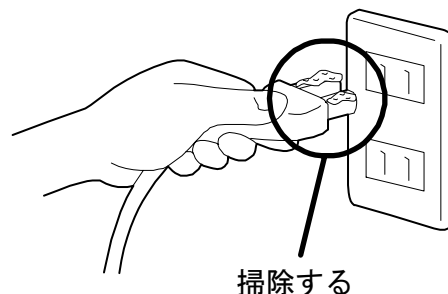


警告



電源プラグを抜き、ほこりを除去する。

※ ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。



5.6 煙突の点検

シーズン初め

警告

点検



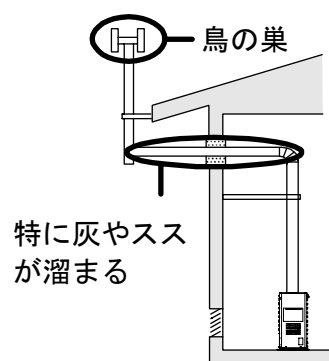
- 煙突が正しく接続されているか点検する。

※ 外れていると運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。

- 積雪の多いときには、煙突トップの周りが雪でふさがれていないことを確認する。ふさがれているときは除雪する。

※ 運転中に排気ガスが室内にもれて、事故の原因になります。

- シーズン初めには必ず点検し、鳥の巣や異物が入ったりしているときは、必ず掃除をしてください。
- 横引きが長いと灰やススが溜まりやすいので掃除をしてください。



5.7 販売店による定期点検

2シーズンに1回

注意

点検



- 正常な機能を維持するために定期点検を行う。


※ 点検や整備を怠ると事故の原因となります。

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

2シーズンに1回はお買い上げの販売店に点検を依頼してください。

6 部品交換のしかた

部品交換が必要なときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

消耗・劣化しやすい部品	対応
●点火ヒータ ●送風ファン ●ロストル ●電源ヒューズ	お買い求めの販売店にご相談ください。
●各種パッキン	お客様での部品交換ができます。（  35・36ページ）

⚠ 注意



点検・手入れは、消火後ストーブが充分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行う。

※ やけど・けがの原因になります。

交換部品は、純正部品を使う。（ヒューズを除く）

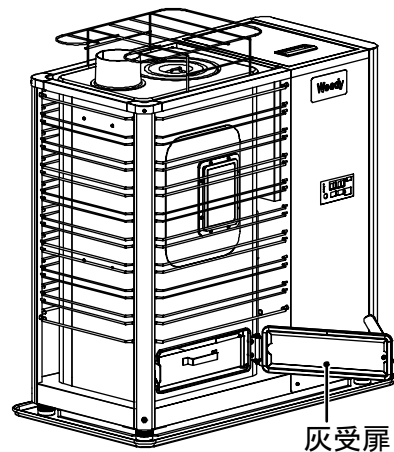
※ 他の部品を使用するとけがや事故の原因となります。

6.1 パッキンの交換

缶体から煙が漏れるときは、以下の手順でパッキンの交換を行ってください。

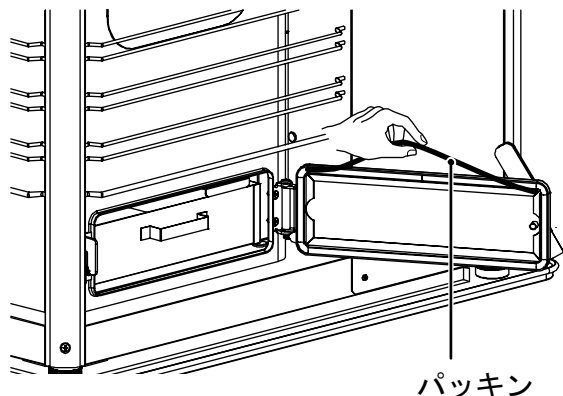
1

本体内部が常温になってから、灰受扉を開けます。

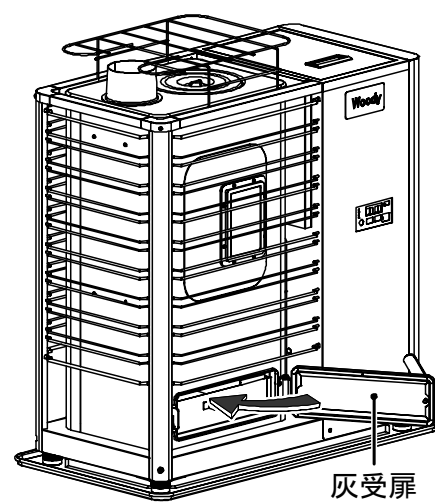


2

パッキンを取り外し、新しいものを取り付けます。



3 灰受扉を閉じます。



7 故障・異常時の対応









万一、具合の悪いときは下記の早見表にもとづいて点検し、処置に困るようなときや、原因のはっきりしないときは、お買い求めの販売店に連絡してください。












7.1 こんな症状が出たら








現 象	原 因	処 置 方 法	参照ページ
初めて使用するとき煙やにおいが出る	防錆油や塗装が焼けるため	異常ではありません 部屋の換気をしてください	—
正常な操作でも点火しない (ただし、点火安全装置がはたらき、「Er.05」が表示されているときは、39 ページを参照してください)	点火ヒータが切れている	点火ヒータの交換が必要です お買い求めの販売店に修理依頼してください	46
すぐに点火しない	点火ヒータが赤熱し、点火するまで約 4～5 分かかります	異常ではありません	—
各 (タイマー運転、運転、エラー、タンク空) ランプが点灯しない	電源プラグがコンセントから抜けている	電源プラグをコンセントへ差し込む	18
	停電している	通電を待ち、復帰後再点火する	20 24
	ヒューズが切れている	電源ヒューズの交換が必要です お買い求めの販売店に修理依頼してください	46
運転中突然消火した	瞬時停電があった	通電を待ち、復帰後再点火する	20 24

現 象	原 因	処 置 方 法	参照ページ
ホッパから煙が出る	ロストルにクリンカができている	付属品の灰力キ棒でクリンカを落す	31
	ロストル、灰受に灰が溜まっている	灰の掃除をする	28
	煙突から逆風が入る	煙突の逆風防止 お買い求めの販売店へご相談ください	—
	ストーブを使用している部屋で換気扇を使用している	換気扇を止める	—
火力調整ボタンを押しても火力が変わらない	制御基板の故障	制御基板の交換が必要です お買い求めの販売店に修理依頼してください	46
運転開始時や消火後に「ピチ・ピチ」という音がる	本体内部が熱により膨張、収縮するためです	異常ではありません	—
木質ペレットが出ない	異物の混入	異物を取り除く	—
	燃料送りモータの故障	モータの交換 お買い求めの販売店に修理依頼してください	46
	ホッパにペレットが入っていない	ホッパにペレットを補給する	15
燃焼中、黒い煙が出る	送風ファンのゴミ詰まり、送風ファンモータの故障	お買い求めの販売店に修理依頼してください	46
	煙突の詰まり	掃除をする	34
煙突先端から連続的に白煙が出る	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためです	異常による白煙ではありません	—

7.2 こんな表示が出たら

現 象	原 因	処置方法 (1)	処置方法 (2)
 <p>(いっ)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	制御基板の故障	<p>1  を押します。</p> <p>➡ ブザーが鳴り止みます。</p> <p>➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯し、ブザーが5秒間鳴ります。</p>	お買い求めの販売店へ連絡してください。
 <p>(いっ)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	ストーブが異常に過熱したとき (過熱防止装置)	<p>2  を押します。</p> <p>➡ 表示が「P1 --」に戻ります。</p>	<p>本体内部が常温になってから、再度、運転操作をする。</p> <p>（同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）</p>
 <p>(いっ)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	地震発生または強い振動がストーブに加わったため感震器が作動 (対震自動消火装置)		<p> 42ページ</p>
 <p>(いっ)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	<p>点火失敗 (点火安全装置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点火動作で火がつかなかったとき ・ 火がついても温度センサが温度上昇を検知できなかったとき 		<p> 16ページ</p> <p>燃焼室の掃除を行い、再度、運転操作をする。</p> <p>（点火ヒータ周りの掃除が不十分な可能性があります。）</p> <p>（同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）</p>

現 象	原 因	処置方法 (1)	処置方法 (2)
 <p>(…)</p> <p>(ブザーが鳴り続ける)</p>	逆火	<p>1  を押します。</p> <p>➡ ブザーが鳴り止みます。</p> <p>➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯し、ブザーが5秒間鳴ります。</p> <p>※ エラー後の消火動作中はファンが停止しますが、故障ではありません。</p>	<p>再度、運転操作をする。</p> <p>（同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）</p>
 <p>(…)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	燃料送りモータ過負荷 <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料に石、金属などの異物が混入している。 ・ 非常に硬い(長い)ペレットが混入している。 	<p>2  を押します。</p> <p>➡ 表示が「P1 --」に戻ります。</p>	<p>ホッパ内に異物が入っていないか確認し、再度、運転操作をする。</p> <p>（同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）</p>
    <p>(…)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	温度センサーの故障		<p>お買い求めの販売店へ連絡してください。</p>
 <p>(…)</p> <p>(ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	燃焼部に燃焼灰が蓄積したとき 煙突がふさがれたり、逆風が起きたとき		<p> 28ページ</p> <p> 49～52ページ</p> <p>再度、運転操作をする。</p> <p>（同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）</p>


現 象	原 因	処置方法 (1)	処置方法 (2)
 <p>(.) (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	<p>失火</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃焼中に炎が消えたとき ・ 燃焼中に温度センサーが設定温度よりも低い温度を検知したとき 	<p>1  を押します。</p> <p>➡ ブザーが鳴り止みます。</p> <p>➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯し、ブザーが5秒間鳴ります。</p> <p>2  を押します。</p> <p>➡ 表示が「P1 --」に戻ります。</p>	<p>再度、運転操作をする。 （同じ現象を繰り返す場合は、お買い求めの販売店へ連絡してください。）</p>
<p>1分ごとに5秒間ブザーが鳴り、「タンク空」ランプが点滅する （15分間）</p>  <p>(.) (ブザーが0.5秒間隔で鳴る)</p>	<p>ホッパ内の燃料（木質ペレット）が少ない</p> <p>15分を経過しても燃料（木質ペレット）の補給がない（ホッパ内が空）</p>	<p>燃料を補給する （ 15ページ）</p> <p>1  を押します。</p> <p>➡ ブザーが鳴り止みます。</p> <p>➡ 消火動作終了（停止）状態で、「運転」ランプは消灯、「タンク空」ランプは点灯し、ブザーが5秒間鳴ります。</p> <p>2  を押します。</p> <p>➡ 「タンク空」ランプが消灯し表示が「P1 --」に戻ります。</p>	<p>燃料（木質ペレット）を補給し、運転操作をする。</p>


8 地震などの災害が発生したら

■消火のしかた

運転中、地震などの災害が発生した場合は、以下の方法を実施してください。

1 **運転入/切** を押します。

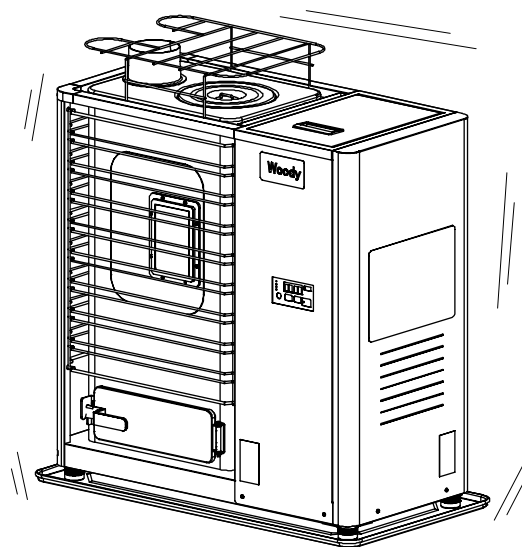
**警告**

**運転中は天板ガードを取り外さない。**
※ 落下可燃物により、火災の原因になります。




お知らせ

- 地震（震度約5以上）や強い振動、衝撃を受けた場合、自動的に消火します。（約20分後）



■再点火のしかた


地震などによって対震自動消火装置が作動した場合、周囲の可燃物、ストーブの損傷、煙突の外れなど異常がないことを確認してから再点火してください。

（ 「3 使用前の準備と確認」、「4 使いかた」）


9 保管（長期間使用しない場合）

シーズンオフや長期間使用しないときは、次の要領で手入れを行い保管してください。

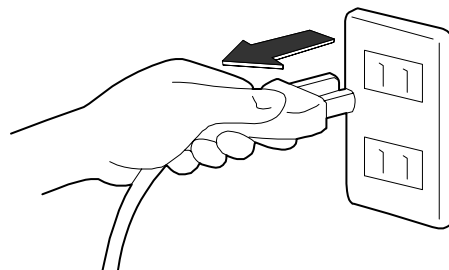
1 電源プラグをコンセントから抜きます。




注意

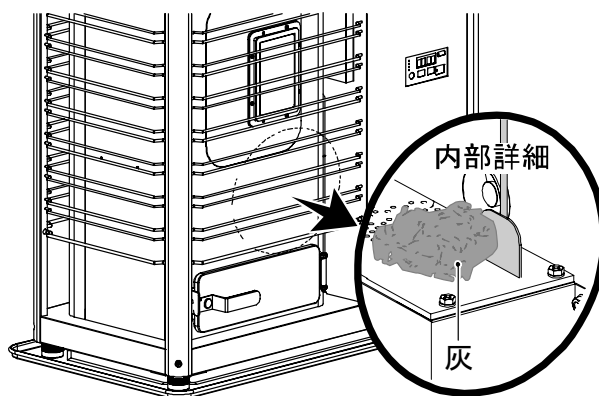


長期間使用しないときは電源プラグを抜く。
※ 守らないと、火災や事故の原因になります。




2 天板蓋を開けて、燃烧室の灰を灰受に落とします。

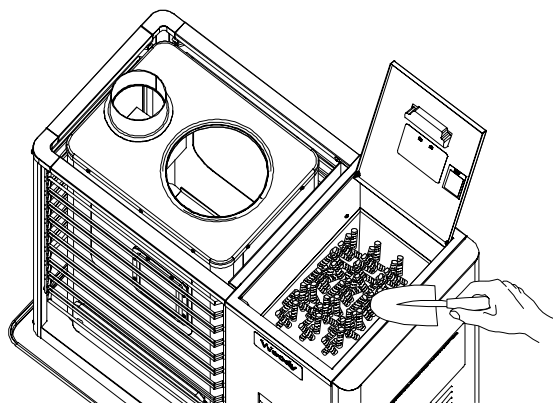
（ 16ページ）



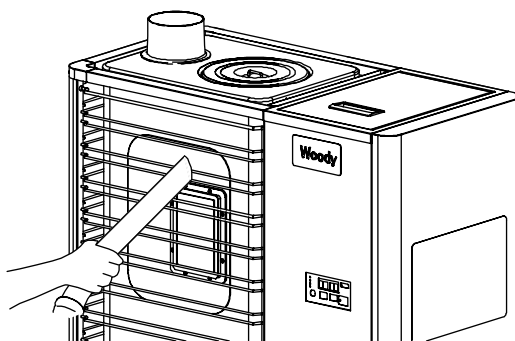
3 木質ペレットを取り出してホッパ内を空にします。

お知らせ

- ホッパ網より下部の木質ペレットを取り出す場合は、クリーニング機能を使用してください。（ 26ページ）



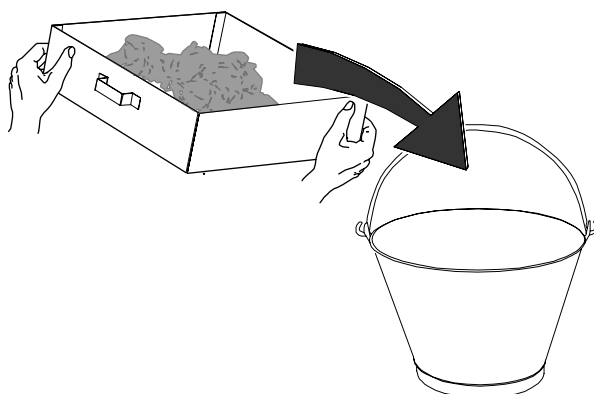
4 ホッパ内、缶体内、バッフルプレート、灰受に付着したススや灰を掃除機を使って取り除きます。



5

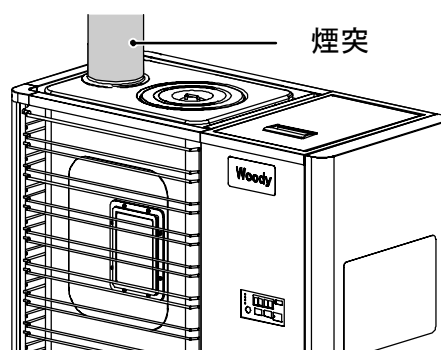
灰受の灰を捨てます。

( 29ページ)




6

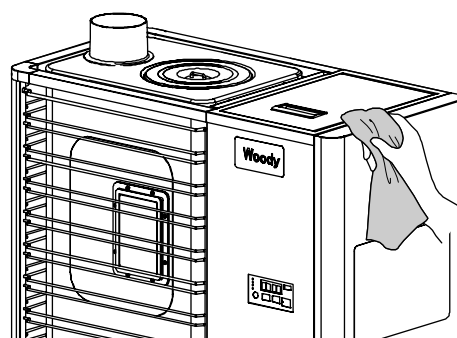
ストーブに接続している煙突を抜きます。



7

本体は、湿った布で汚れを落してから乾ふきし、缶体は乾ふきのみします。

( 33ページ)



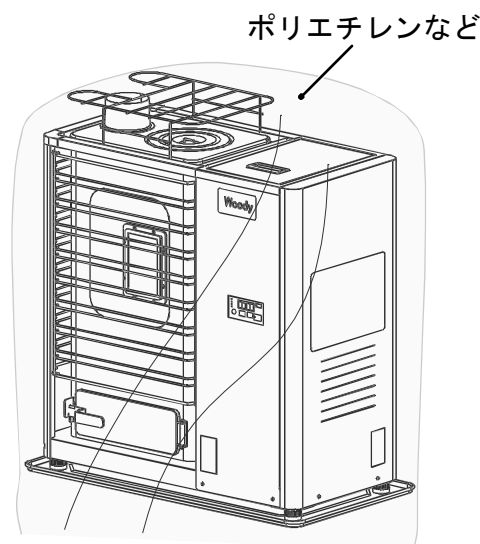
8

ストーブを保管します。

- ストーブを取り外して保管するときは、ポリエチレンなどの袋をかぶせます。そして、乾燥した場所に横倒ししないようにして保管してください。
- ストーブを据付けたまま保管されるときは、ほこりがたまらないようカバーをかけて保管してください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。

！ お願い

- 次シーズン据付けるときは、必ずお問い合わせの販売店に依頼してください。



10 仕様

型	式	PS-1301J
暖房方式		直接送風燃焼式・強制通気形・自然対流形
点火方式		ヒーター点火式
使用燃料		木質ペレット
燃料消費量	最大	3.8 kg/h
	最小	1.2 kg/h
発熱量（入力）	最大	74,860 kJ/h
	最小	23,640 kJ/h
熱効率	最大	63%
	最小	58%
暖房出力	最大	13.1 kW
	最小	3.8 kW
暖房のめやす（※1）	温暖地	木造33畳（54.5 m ² ）まで
		コンクリート46畳（76 m ² ）まで
	寒冷地	木造34畳（56 m ² ）まで
		コンクリート53畳（87 m ² ）まで
外形寸法		高さ930 mm 幅870 mm 奥行470 mm
質量		57 kg
タンク容量		18 kg
電源電圧及び周波数		100V 50/60 Hz
定格消費電力	点火時	124/127 W
	燃焼時	23/27 W
煙突径		106 mm
安全装置		対震自動消火装置・過熱防止装置 点火安全装置・燃焼制御装置
付属品		灰力キ棒（スラッジャー）

※1 暖房のめやすの寒冷地とは、室内外温度差が30℃の地域を指し、温暖地とは、室内外温度差が15℃の地域を指します。

寒冷地の木造とは、木造戸建二重窓、断熱材75 mmの建物を指し、コンクリートとは、コンクリート集合住宅の二重窓、断熱材30 mmの建物を指します。

- 暖房のめやすは、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。
- 暖房出力は、木質ペレットの発熱量、19,700 kJ/kgを基に算出しています。

1 1 保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れ・転居などのご相談は、お買い求めの販売店へお申し付けください。

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い求めの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：納品した日から1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このストーブの補修用性能部品の、製造打ち切り後12年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

「7 故障・異常時の対応」に従ってご確認のあと、なおらないときはまず電源プラグを抜いて、お買い求めの販売店へご連絡ください。

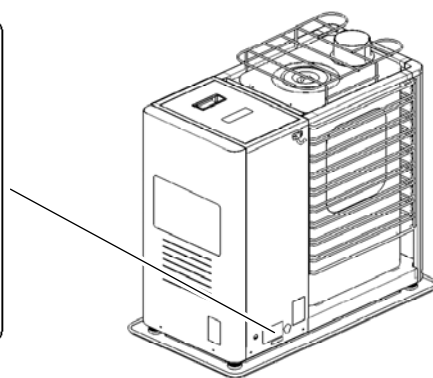
- 保証期間中は
保証書の規定に従って、修理をさせていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理ご相談窓口

お買い求めの販売店またはお近くの当社営業所（裏表紙記載）にお申し付けください。

銘板

規格名称	半密閉式ペレットストーブ		
種類	直接送風燃焼式、強制通気形、自然対流型		
型式	P S - 1 3 0 1 J		
使用燃料	混合ペレット 上伊那森林組合ピュア1号		
タンク容量	18kg		
暖房出力	13.1kW	燃料消費量	3.8kg/h
熱効率	最大燃焼時63%、最小燃焼時58%		
電源電圧	100V	周波数	50Hz/60Hz
消費電力	点火時124/127W、燃焼時23/27W		
製造番号	908821-*****		
株式会社 山本製作所			



12 据付け

12.1 据付けに関する注意事項

⚠ 注意



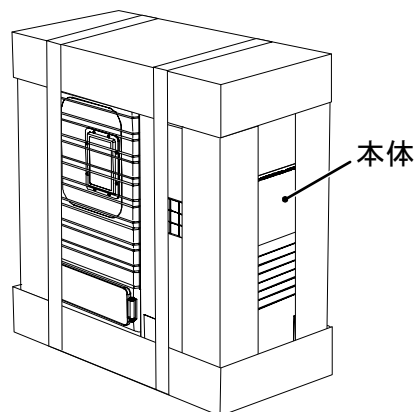
据付工事や移設工事は、必ずお買い求めの販売店に依頼する。

※ ストーブおよび煙突の据付けについては、各地の火災予防条例の設置基準による規制があります。お客様ご自身による工事は予想しない事故の原因になることがあります。

12.2 開梱する

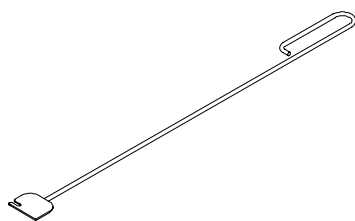
ダンボールを開け、以下の付属品と添付品が揃っているか確認してください。

不足する部品や破損した部品があれば、当社へ連絡してください。



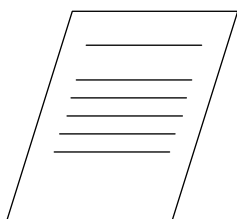
■ 付属品

☐ 灰力キ棒 1本

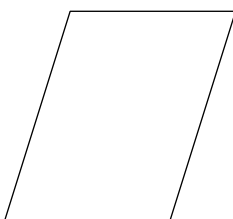


■ 添付品

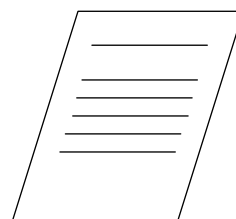
☐ 保証書 1式



☐ 取扱説明書（本書） ..1冊



☐ 安全確認シート 1式



12.3 設置場所を選ぶ

⚠ 警告



窓の凍結や地下室など換気が充分に行えない場所では使用しない。

※ 酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。

次の場所では据付け、使用しない。

- ・ 水平でない場所、不安定な場所
- ・ 不安定な物をのせた棚などの下
- ・ 風のあたる場所や部屋の出入口、屋外
- ・ 可燃性ガスの発生する場所や、たまる場所
- ・ ほこり、湿気、金属粉の多い場所
- ・ 温室、飼育室など人のいない場所
- ・ 標高が1000m以上の高地
- ・ 気密の高い部屋

※ 火災、不完全燃焼、有毒なガス発生の原因になることがあります。

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しない。

※ 火災が発生するおそれがあります。

⚠ 注意



スプレーや化学薬品を使用する場所で使わない。

※ 健康を害したり、故障の原因になることがあります。

マントルピースなどストーブが囲われる場所には据付けない。

※ 不完全燃焼の原因になることがあります。

ストーブを使用している同室内で換気扇を使用しない。

※ 立消えて爆発燃焼するおそれがあります。



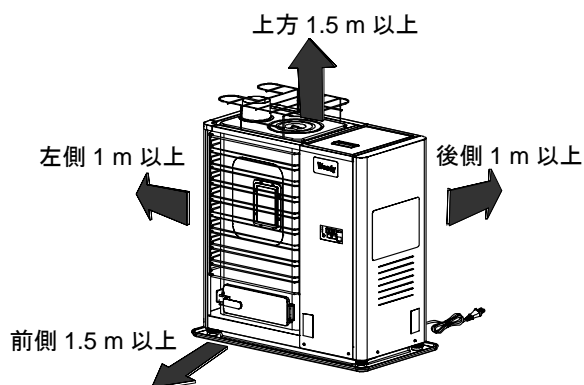
熱に弱い床面にはマットなどを敷く。

※ 熱に弱い材質の床面は変色、ヒビ割れ、そり返りなどが発生することがあります。熱に強いマットなどを敷いてください。

1

可燃物との距離を離します。

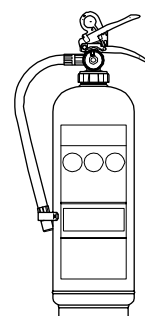
- 図に示す寸法以内に可燃物や障害物を置かないでください。



2

消火器が設置されているか確認します。

- 設置をされていない場合は、お客様へ推奨してください。

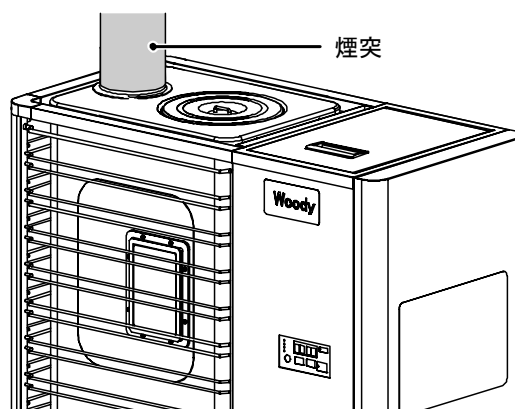


12.4 煙突を取り付ける

煙突は、排気ガスを屋外に排出するとともに、燃焼を正常に行うために重要なものです。誤った取り付けは製品の性能が充分発揮できないだけでなく、燃焼不良や火災発生など、思わぬトラブルの原因になります。煙突の取り付けの際は、次の事項および各地の火災予防条例にしたがって、正しく工事してください。

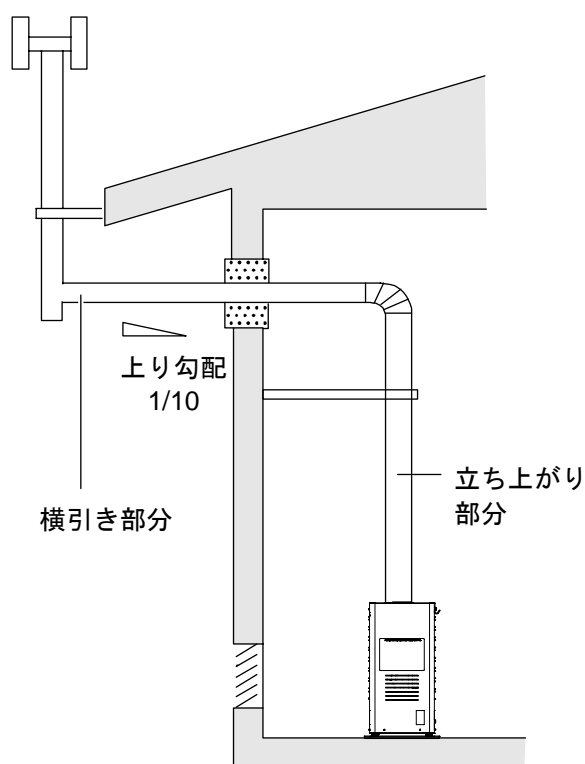
■ 適合する煙突の径

- 直径は106 mm（3寸5分）です。
使用する煙突はJIS（S 2080）規格適合品および日本燃焼機器検査協会認証品を使用してください。



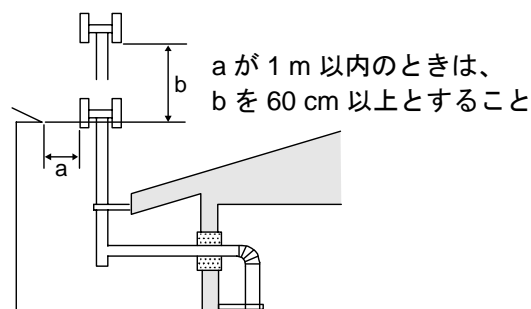
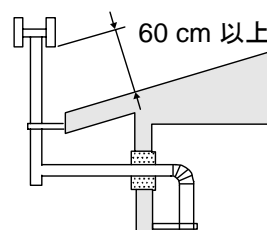
■煙突の横引きおよび立ち上がり寸法

- ストープからの立ち上がり部分は1本（90 cm）以上確保してください。
- 横引き部分はできるだけ短くし1／10以上の先上り勾配をつけてください。
- このストーブの基本煙突高さは、垂直2本（約1.8 m）です。
 - 横引きを1本増すごとに垂直長さ半本分追加してください。
 - 曲がり部分を1個増すごとに垂直長さ半本分追加してください。
 - このストーブの横引き部分の長さは最大3本までです。
横引きはできるだけ短くし、曲がりりは3個以下になるようにしてください。
 - 横引き部分が3本以上になる場合は、必ず排煙ファンを使用してください。
横引きと曲りは抵抗になるため、横引きは短く、曲がりりは少なくしてください。



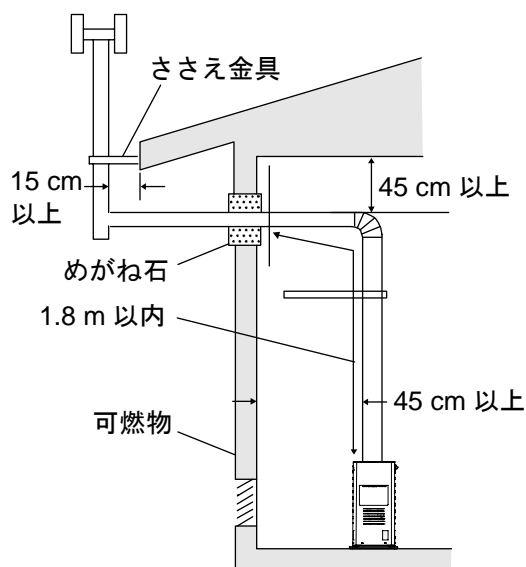
■煙突トップの位置

- 煙突トップから1 m以内に建物の軒がある場所は、その軒から60 cm以上高くしてください。
- 建物の開口部（窓など）から煙突トップまでの距離は、1 m以上離してください。
- 建物の風圧帯から60 cm以上離してください。（風圧帯に煙突トップがあると、強い風がふきつけたとき、室内より煙突トップ周辺が高圧となり、煙突からストーブ内に風の吹き込む逆風現象が起こります。）
- 煙突トップはH形または傾斜H形を使用し、逆風や雨水が入らないようにしてください。



■煙突と可燃物との距離（断熱施工をしない場合）

ストーブからの煙突長さ	煙突と可燃物の距離
1.8 m以内	45 cm以上
1.8 mを超える部分	15 cm以上



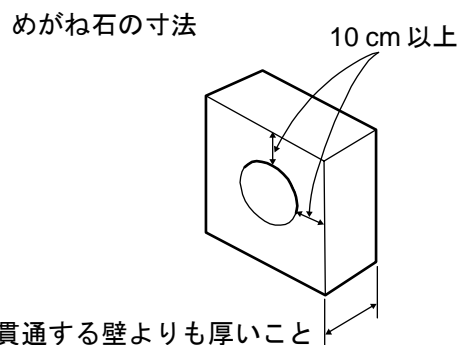
■逆風に対する注意

逆風を受けると機器の燃焼に悪影響があるので、逆風を受けないよう注意してください。

密閉度の高い部屋で換気扇を使用する場合は必ず給気口を設けてください。

■家屋貫通部の注意

- 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は、必ずめがね石を取り付けてください。
- 小屋裏・天井裏・床下などへの煙突工事は危険です。行わないでください。
- 可燃性の壁などを貫通する部分およびその付近では煙突の接続をしないでください。
- 地区により異なることがありますので、各地の火災予防条例を参照してください。



■煙突の固定

煙突は風や振動などで倒れないよう、ささえ金具やささえ線などで固定してください。

■煙突の点検

煙突の取り付けが終わったら、もう一度点検してください。必ず正しく取り付けてください。

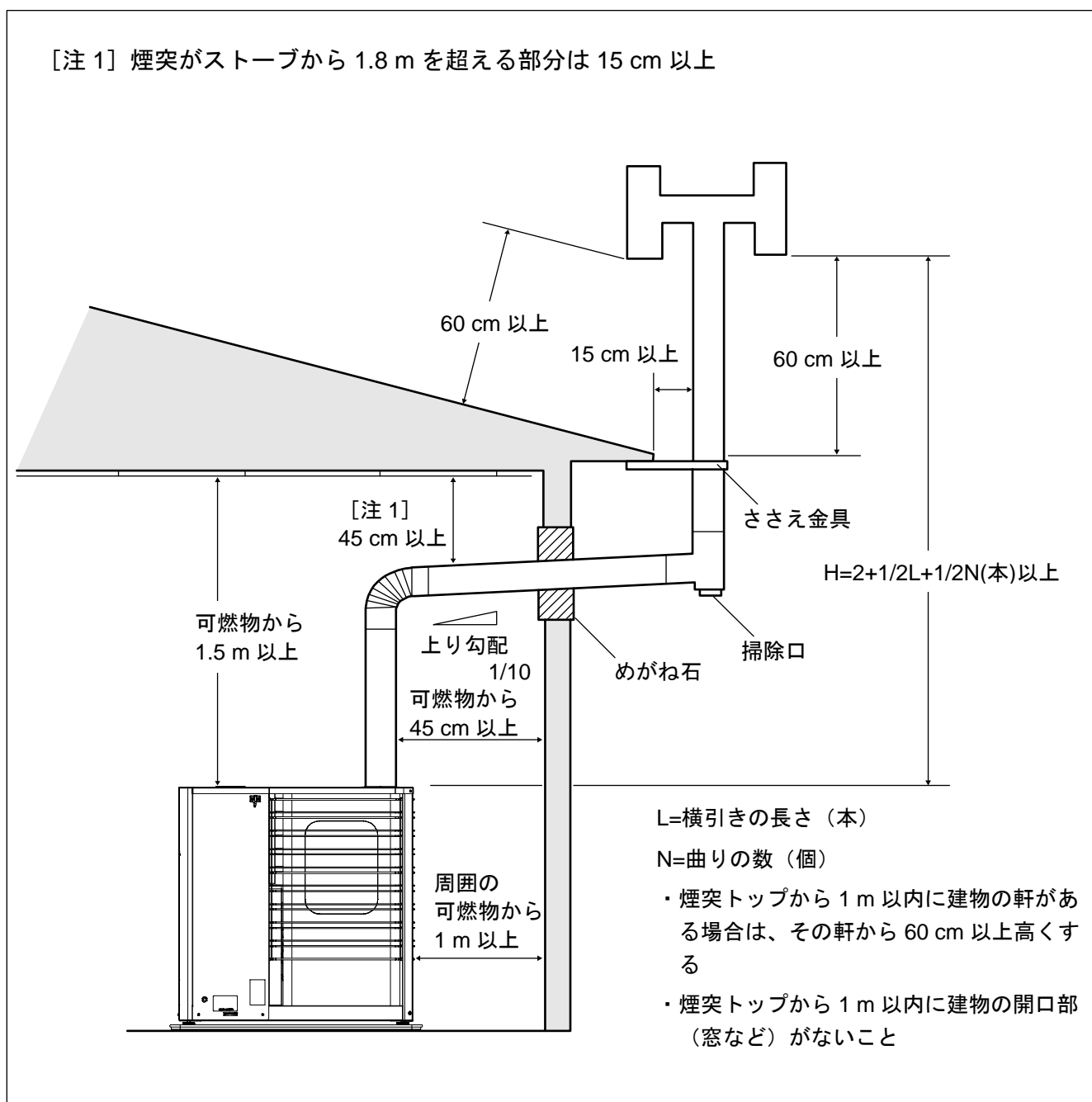


お知らせ

- 製品の性能が十分に発揮されなかったり、故障を起したりする原因は、煙突工事の不完全によるものが大半です。

<標準例>

[注 1] 煙突がストーブから 1.8 m を超える部分は 15 cm 以上



12.5 据付後の確認

据付工事が終わったら、もう一度点検してください。

- 近くに可燃物がおかれていないか。
- 日常の使用および点検、手入れが容易にできるか。
- 電源コードが足に引っかかったり、破損するおそれはないか。
- 電源、電圧は正常か。電圧の低すぎる所では使用しないでください。

12.6 試運転

「3 使用前の準備と確認」、「4 使いかた」を参照し、試運転を行ってください。
正常な燃焼が保てるか確認し、煙突の接続部などから排気ガスが漏れていないか再度点検、確認してください。

お客さま相談窓口

製造元 株式会社山本製作所

営 業 本 部	TEL (0237) 43-8811
北海道営業所	TEL (0126) 22-1958
東北営業所	TEL (0237) 43-8828
関東営業所	TEL (0285) 25-2011
北越営業所	TEL (025) 383-1018
東海営業所	TEL (0566) 75-8001
大阪営業所	TEL (06) 4863-7611
岡山営業所	TEL (086) 296-6300
四国営業所	TEL (087) 879-4555
福岡営業所	TEL (092) 504-8171
南九州営業所	TEL (0986) 38-3120

株式会社**山本製作所**

本店
山形県天童市

本社
〒999-3701
山形県東根市大字東根甲5800-1
TEL. 0237-43-3411

※ 所在地や電話番号は変更になることがあります。